

No.	事務事業名			国分図書館運営事業			所属部	教育部	
							所属課	国分図書館	
政策体系	政策名	04	育み磨きあうまちづくり					課長名	木佐木 美月
	施策名	05	学習機会の充実					所属G(係)	管理図書G
	基本事業名	01	学習環境づくり					電話番号	45-5111
予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令根拠	図書館法 霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例 同条例施行規則	
	一般	10	06	08	159015	管理運営事業			
	一般	10	06	08	159080	しみん学習支援公社経費			

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)							事業期間	
国分図書館は、国分シビックセンター内の複合施設棟内に設置されている。 図書資料の提供、収集、整理、保存等の図書館活動を行い、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境を整備する。また、図書館施設の維持管理を行う。 (図書資料の閲覧、貸出・返却、レファレンスサービス、リクエストサービス、相互貸借、複写サービス等) ・開館時間 9:30~21:00 ・休館日 年末年始(12/29~1/3)、特別整理期間(6月中10日間) ・貸出冊数 5冊以内 貸出期間 15日以内							<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ (S 33 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (年度 ~ 年度)	

1 現状把握の部(DO)																					
(1) 事務事業の目的と指標																					
手段(主な活動)					活動指標(事務事業の活動量を表す指標)																
19年度実績(19年度に行った主な活動)					<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ア</td><td>開館日数</td><td>日</td></tr> <tr><td>イ</td><td>入館者数</td><td>人</td></tr> <tr><td>ウ</td><td>蔵書冊数</td><td>冊</td></tr> </table>					名称		単位	ア	開館日数	日	イ	入館者数	人	ウ	蔵書冊数	冊
名称		単位																			
ア	開館日数	日																			
イ	入館者数	人																			
ウ	蔵書冊数	冊																			
事務事業の概要と同様					⇒																
20年度計画(20年度に計画している主な活動)					<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ア</td><td>人口</td><td>人</td></tr> <tr><td>イ</td><td>国分地区人口</td><td>人</td></tr> <tr><td>ウ</td><td>適切に整理・保存すべき図書資料</td><td>冊</td></tr> </table>					名称		単位	ア	人口	人	イ	国分地区人口	人	ウ	適切に整理・保存すべき図書資料	冊
名称		単位																			
ア	人口	人																			
イ	国分地区人口	人																			
ウ	適切に整理・保存すべき図書資料	冊																			
前年度と同様					⇒																
対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等					<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ア</td><td>人口</td><td>人</td></tr> <tr><td>イ</td><td>国分地区人口</td><td>人</td></tr> <tr><td>ウ</td><td>適切に整理・保存すべき図書資料</td><td>冊</td></tr> </table>					名称		単位	ア	人口	人	イ	国分地区人口	人	ウ	適切に整理・保存すべき図書資料	冊
名称		単位																			
ア	人口	人																			
イ	国分地区人口	人																			
ウ	適切に整理・保存すべき図書資料	冊																			
市民(市内に住所を有する者、市内に通勤、通学する者) 図書資料					⇒																
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)					<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ア</td><td>貸出人数(移動図書館分を除く)</td><td>人</td></tr> <tr><td>イ</td><td>市民1人あたりの国分図書館の年間貸出冊数</td><td>冊/年</td></tr> <tr><td>ウ</td><td>適切に整理・保存されている図書資料の割合</td><td>%</td></tr> </table>					名称		単位	ア	貸出人数(移動図書館分を除く)	人	イ	市民1人あたりの国分図書館の年間貸出冊数	冊/年	ウ	適切に整理・保存されている図書資料の割合	%
名称		単位																			
ア	貸出人数(移動図書館分を除く)	人																			
イ	市民1人あたりの国分図書館の年間貸出冊数	冊/年																			
ウ	適切に整理・保存されている図書資料の割合	%																			
欲しい情報を市民が得られる 図書資料が適切に保存・継承され、利用することができる					⇒																
結果(どんな結果に結び付けるのか)					<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ア</td><td>住んでいる地域の学習を行う環境が整っていると考える市民の割合</td><td>%</td></tr> <tr><td>イ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ウ</td><td></td><td></td></tr> </table>					名称		単位	ア	住んでいる地域の学習を行う環境が整っていると考える市民の割合	%	イ			ウ		
名称		単位																			
ア	住んでいる地域の学習を行う環境が整っていると考える市民の割合	%																			
イ																					
ウ																					
地区に合った学習を行う環境が整う					⇒																

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	36,441	33,982	34,578		
	事業費計(A)	千円	36,441	33,982	34,578			
活動指標	ア	日	349	350	349	349	349	350
	イ	人	214,699	211,155	215,000	218,000	220,000	222,000
	ウ	冊	203,343	209,440	216,000	222,600	229,200	235,800
対象指標	ア	人	127,615	127,773	127,736	128,383	128,640	128,868
	イ	人	53,129	53,583	56,149	57,394	57,907	58,421
	ウ	冊	203,343	209,440	216,000	222,600	229,200	235,800
成果指標	ア	人	78,243	80,583	82,000	83,500	85,000	86,500
	イ	冊/年	2.1	2.2	2.2	2.3	2.3	2.4
	ウ	%	100	100	100	100	100	100
上位成果指標	ア	%	29.4	30.0	30.0	31.0	31.0	32.0
	イ							
	ウ							

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等									
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?									
昭和33年に市民の学習環境を充実させるため、国分市立図書館が設置された。									
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?									
平成9年に国分シビックセンター内に移転した。 個人一人ひとりの情報ニーズが多様化する中、図書館等の本の貸出の利便性や蔵書の充実を図る必要がある。									
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?									
利用者から図書館の蔵書を増やしてほしい、また図書のネットワーク等の整備を行い、市内全域において本の貸出の簡素化を図ってほしいとの要望がある。 図書資料の汚損、破損等の防止対策をとるようにと議会からの意見がある。									

事務事業名	国分図書館運営事業	所属部	教育部	所属課	国分図書館
-------	-----------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段, 事務事業) ↳ 他図書館(室)運営事業との連携 <input type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか? (アウトソーシングなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	電算システムの安定した稼働により、効率的で円滑な事業執行ができています。今後市内の他の図書館(室)との電算ネットワーク化を図ることにより、利用者サービスの向上に努める必要があります。																					
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<改革改善案> 市内の他の図書館(室)との電算ネットワーク化を図ることにより、利用者サービスの向上に努める。																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						
現在の国分・隼人図書館の電算システムは設計が古く、全図書館(室)への拡充が難しいため、全図書館(室)に統一的な新規電算システムの導入が必要である。	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>▲</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>▲</td> <td>▲</td> <td>▲</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			▲	低下	▲	▲	▲
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			▲																		
	低下	▲	▲	▲																		

政策体系	No.	事務事業名	公民館短期講座開設事業	所 属 部	教育部
	政策名	0 4	育み磨きあうまちづくり	所 属 課	生涯学習課
	施策名	0 5	学習機会の充実	課 長 名	野村 望
	基本事業名	0 2	学習活動の推進	所 属 G (係)	学習情報G
				電 話 番 号	42-1111

予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令	特になし
	一般	1	0	0	6	0	4	

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)	事業期間
市民のニーズを十分の把握した上で、ふるさとのよさを知り、発見するためのテーマを設定し、地域にあった学習活動の推進を図るために地域の特性を活かした講座を積極的に支援する。 講座の開設回数は3～8回の講座とし、受講料は1,000円(実費は別) 開設期間は6月～2月 定員については、開設講座にてその都度調整する。	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ (H 18 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (年度 ~ 年度)

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	単位
19年度実績(19年度に行った主な活動)		ア 講座数開設数	件
広報による募集 10講座開設(暮らしの中の法律豆知識、霧島連山を楽しもう、温泉の楽しみ方、乗馬体験、黒酢を知ろう、楽しい魚釣り、やさしいクラシックギター、健康ボウリング講座(昼・夜)、焼酎学)		イ 講座受講者数(実数)	人
20年度計画(20年度に計画している主な活動)		ウ	
広報及びホームページによる募集 12講座開設(暮らしの中の法律豆知識他、)		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		名称	単位
市民(市内に居住する成人)		ア 市民(市内に居住する成人)	人
		イ 応募者数	人
		ウ	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
ふるさとのよさを知り発見してもらうための学習のきっかけが得られる。		名称	単位
		ア 講座の内容に満足した受講者の割合	%
		イ	
		ウ	
結果(どんな結果に結び付けるのか)		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
自身のテーマに沿った学習機会が得られる		名称	単位
		ア 学習活動を行わない理由として自身のテーマに沿った学習機会がないことをあげている市民の割合	%
		イ	
		ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円				
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円	40	206	150		
		一般財源	千円	45	71	105		
		事業費計(A)	千円	85	277	255		
活動指標		ア 件	3	12	13	10	10	10
		イ 人	60	250	250			
		ウ						
対象指標		ア 人	127,615	127,871	128,128	128,383	128,640	128,868
		イ 人	90	250	250	200	200	200
		ウ						
成果指標		ア %	未把握	90	90	95	95	95
		イ						
		ウ						
上位成果指標		ア %	17.9	17.5	16	15	14	13
		イ						
		ウ						

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?	
定期講座の申込みにおいて地域間に格差がある。格差は正のためにふるさとのよさを知り、発見してもらう地域の特性を活かした魅力ある講座の導入を図るために平成18年度より開始した。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
特になし	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
受講生からふるさとのよさを再発見し、地域間の交流ができれば良いとの意見が寄せられている。	

事務事業名	公民館短期講座開設事業	所属部	教育部	所属課	生涯学習課
-------	-------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価					
目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷	この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	
	公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷	なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	
	対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷	対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	
有効性 評価	成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷	成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	
	廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	
	類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段, 事務事業) ↷	<input type="checkbox"/> 統廃合できる ↷	<input type="checkbox"/> 連携できる ↷	<input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷
効率性 評価	事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか? (アウトソーシングなど)	
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?	

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) 【担当課長記入欄】

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	市民のニーズを的確に捉えながらふるさとのよさを発見する講座のねらいを明確にする。講座の内容や手段を工夫し、効率性の確保と共に効果の向上を検討する。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<改革改善案> ふるさとのよさを発見する講座の開設をするために、人材の発掘や地域に眠っている資源の活用など、地域のよさを肌で感じ、ふれあい、地域に根ざした学習環境等を整え、市民一人一人が気軽に公民館講座を利用いただけるような方策を検討していく。																						

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
 市民のニーズを常に把握するために、アンケート調査を実施する。また、事業改善計画等を作成し、公民館関係職員研修会で検討する。

No.	事務事業名		単人図書館読書推進事業				所属部	教育部
							所属課	単人図書館
政策体系	政策名	04	育み磨きあうまちづくり				課長名	木佐木 美月
	施策名	05	学習機会の充実				所属G(係)	
	基本事業名	02	学習活動の推進				電話番号	43-7574
予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令根拠	
	一般	10	06	08	159010	自主事業	図書館法 ・子どもの読書活動の推進に関する法律 ・霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例 ・同条例施行規則	

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)							事業期間	
多様な読書行事等への参加を通し、本に接する機会を持つことにより読書への興味を興し、また、子どもたちへの読み聞かせ等を行う読書ボランティアの育成を図ることにより、学習活動の推進を図る。 【開催行事】 おはなしの部屋、ブックスタート、子ども読書の日おはなしの部屋、語り手講座、子ども映画教室、えほんとわらべうたの会、子ども読書推進研究会、緑陰読書、毎月23日は子どもといっしょに読書の日手作りしおり配布、図書館講座							<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
							<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ (H 3年度~)	
							<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (年度 ~ 年度)	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
19年度実績(19年度に行った主な活動) 事務事業の概要と同様		単位	
20年度計画(20年度に計画している主な活動) 前年度と同様		ア 行事の開催回数	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 単人地区市民		イ	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) できるだけ多くの市民に読書に興味をもってもらう		ウ	
結果(どんな結果に結び付けるのか) 自身のテーマに沿った学習機会が得られる		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
		名称	
		単位	
		ア 単人地区人口	
		イ	
		ウ	
		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	
		単位	
		ア 読書に興味を持った参加者数	
		イ	
		ウ	
		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
		名称	
		単位	
		ア 学習活動を行わない理由として、自身のテーマに合った学習機会がないことをあげている市民の割合	
		イ	
		ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	459	385	266		
事業費計(A)		千円	459	385	266			
活動指標		ア 回	97	105	110	110	110	110
対象指標		ア 人	36,669	37,043	37,042	36,629	36,613	36,597
成果指標		ア 人	4,361	3,856	4,000	4,000	4,000	4,000
上位成果指標		ア %	12.7	12.0	12.0	11.0	11.0	10.0
		イ %	17.9	17.0	16.0	15.0	14.0	13.0

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか? できるだけ多くの市民に読書に興味をもってもらい、本に親しんでもらうために開始した。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 住民のニーズも高くなり、様々な学習機会の提供を求められるようになってきた。また、読書ボランティアや親子読書会等も増え、学校での読み聞かせも盛んになり、子どもを取り巻く環境も良い変化を見せている。また、図書館の利用者も増加し、行事への参加も増えてきている。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか? 市民から、色々な学習の機会が欲しいので、講演会やおはなし会等をもっと実施してほしいとの要望がある。	

事務事業名	単人図書館読書推進事業	所属部	教育部	所属課	単人図書館
-------	-------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価					
目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷	この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?	
	公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷	なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?	
	対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷	対象を限定・追加すべきか?意図を限定・拡充すべきか?	
有効性 評価	成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷	成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?	
	廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	
	類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段,事務事業) ↳ 他図書館(室)読書推進事業	<input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 連携できる ↷	<input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷
効率性 評価	事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)	
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?	

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	読書活動推進の様々な取組を進めており、それぞれ成果をあげている。中でもH19年度から実施したブックスタートは、保護者が子どもの幼い時期での絵本の大切さを知り、ボランティアによる「おはなしの部屋」の絵本の読み聞かせの利用者が増えている。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	コスト <table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		削減	維持	増加	向上				維持				低下			
	削減	維持	増加														
向上																	
維持																	
低下																	

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
市内の各図書館(室)で実施している読書推進事業を役割分担し、それぞれの地域の特性を活かし連携を図る。

No.	事務事業名		メディア研修事業			所属部	教育部	
						所属課	メディアセンター	
政策体系	政策名	04	育み磨きあうまちづくり				課長名	木佐木 美月
	施策名	05	学習機会の充実				所属G(係)	
	基本事業名	02	学習活動の推進				電話番号	45-5111
予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令根拠	
	一般	10	06	09	160010	自主事業	特になし	

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						事業期間	
市民対象のメディア(パソコンやデジタルビデオカメラなどの情報機器)に関する研修講座を開催し、メディアに関する学習機会を提供する。受益者負担はテキスト代として500円~1000円 ・パソコン関係講座(パソコンの基本、インターネット、文書作成、図・写真の挿入、表計算、グラフ作成、デジタルカメラの映像を画像処理ソフトを使って加工など)計年27回(基礎講座17回、ワード講座4回、エクセル講座4回、デジタルアート講座2回)1日5時間×2日で1講座 ・ビデオ関係講座(デジタルビデオカメラで撮影した映像をパソコンで編集)計年4回(はじめてのデジタルビデオ講座1回、ノンリニアビデオ編集講座2回、親子ビデオ講座1回)1日5時間×1日または2日で1講座 ・メディア利用に関する課題やトラブルを解消できるように、来所による研修や相談に対応する。						<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ (H 9年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (年度~ 年度)	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
19年度実績(19年度に行った主な活動) ・パソコン関係講座(27回 362人受講)メディアセンターと各拠点公民館などで開催 ・ビデオ関係講座(4回 21人受講)メディアセンターで開催 ・来所研修・相談(848回 2,652人)		ア	研修講座開催回数
20年度計画(20年度に計画している主な活動) ・パソコン関係講座(27回)一部対象者変更 ・ビデオ関係講座(4回) ・来所研修・相談(随時)		イ	研修講座参加者数(延べ)
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 メディア(パソコンやデジタルビデオカメラなどの情報機器)が使えるようになりたい市民		ウ	研修講座参加者数(実)
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) メディアが使えるようになる。		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
結果(どんな結果に結び付けるのか) 自身のテーマに沿った学習機会が得られる。		ア	研修講座応募者数
		イ	来所研修申込者数
		ウ	
		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		ア	メディアが使えるようになった受講者の割合
		イ	
		ウ	
		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
		ア	学習活動を行わない理由として自身のテーマに沿った学習機会がないことをあげている市民の割合
		イ	学習活動を行わない理由として時期や時間が合わないことをあげている市民の割合
		ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円	416	302	375		
		一般財源	千円	3,904	3,304	3,633		
	事業費計(A)	千円	4,320	3,606	4,008			
活動指標		ア 回	46	31	31	25	25	25
		イ 人	514	383	460	392	392	392
		ウ 人	434	278	345	300	310	320
対象指標		ア 人	689	489	580	460	465	470
		イ 人	1,465	2,652	2,700	2,710	2,720	2,730
		ウ						
成果指標		ア %	未把握	93	95	96	97	98
		イ						
		ウ						
上位成果指標		ア %	12.7	10.1	12.0	11.0	11.0	10.0
		イ %	17.9	17.5	16.0	15.0	14.0	13.0
		ウ						

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?	
学校教育や社会教育における視聴覚教育の振興を図ることを目的に、平成9年1月に国分市立視聴覚センターとして施設が開設され、平成9年度から開始された。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
平成17年11月7日の合併により対象地区が拡大し、全体的に受講者が増加しているが、移動パソコン基礎講座については応募者が少ない状況にある。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
応募者が定員を超えると抽選により受講者を決定しているが、講座実施回数や日数を増やしてほしいとの要望が受講者から寄せられている。	

事務事業名	メディア研修事業	所属部	教育部	所属課	メディアセンター
-------	----------	-----	-----	-----	----------

2 評価の部 (SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段, 事務事業) ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↷
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか? (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
<table border="0"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td><input type="checkbox"/> 適切</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td><input type="checkbox"/> 適切</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	効率性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<p>本事業はメディアセンターが実施すべき内容のものであると考えるが、全ての研修講座の申込者が増加するよう実施方法や研修内容の見直しを行い、有効性・効率性の向上を図る必要がある。</p>										
目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																					
有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																					
効率性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																					
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																					
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																						
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <p><改革改善案> 研修内容の違いによって申込者数が多い講座、逆に少ない講座がある。全ての研修講座で多くの市民の要望に応えることができるように、常に講座内容を検討して必要に応じ見直していく。 平成20年度は移動パソコン基礎講座の回数を減らし、その分を60歳以上の高齢者を対象とした初心者向けの研修講座として計画するなど、対象者を区分したり講座内容の充実を図るなど、より多くの市民が受講できる機会を設けていく。</p>	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 受講者によって抱える課題が多岐にわたっているため、研修講座受講終了後は個別やグループでの来所による研修を勧めているが、状況に応じ課題の解決や相談に応じるなど、アフターフォローの充実に努めていく。																							